

# 経済・金融 フラッシュ

## 貿易統計 14年8月

～自動車を中心に米国向け輸出が減少

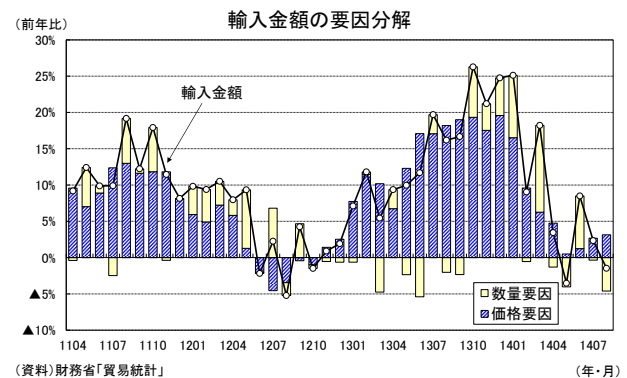
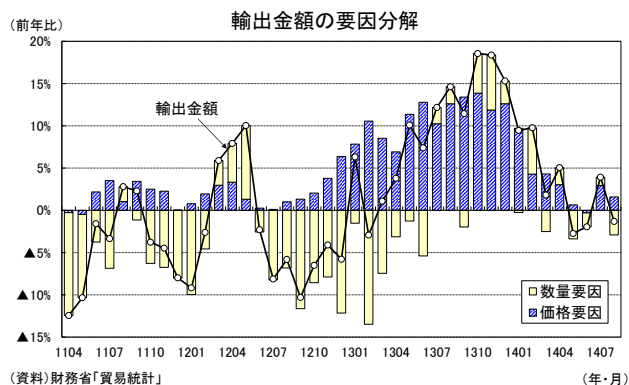
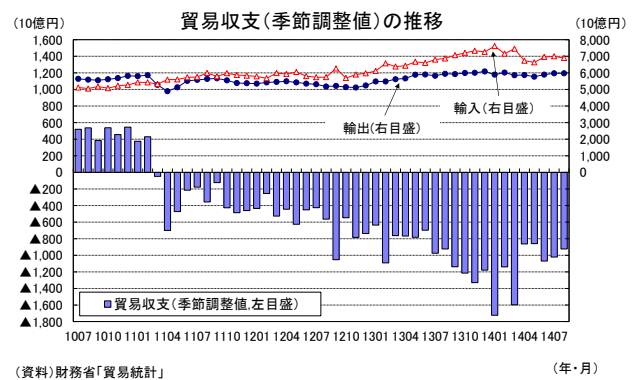
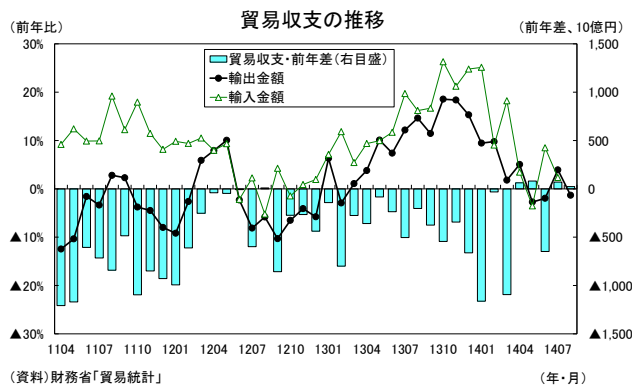
経済研究部 経済調査室長 斎藤 太郎

TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

### 1. 輸出入ともに減少

財務省が9月18日に公表した貿易統計によると、14年8月の貿易収支は▲9,485億円の赤字となったが、赤字幅は市場予想（QUICK集計：▲10,285億円、当社予想は▲9,475億円）を下回った。輸出（7月：前年比3.9%→8月：同▲1.3%）、輸入（7月：前年比2.3%→8月：同▲1.5%）ともに前年比で減少に転じたが、輸出の減少幅が輸入の減少幅よりも若干小さかったため、貿易収支は小幅ながら2ヵ月連続で前年よりも改善した。

輸出の内訳を数量、価格に分けてみると、輸出数量が前年比▲2.9%（7月：同1.0%）、輸出価格が前年比1.6%（7月：同2.9%）、輸入の内訳は、輸入数量が前年比▲4.6%（7月：同▲0.3%）、輸入価格が前年比3.2%（7月：同2.7%）であった。輸出入ともに数量の伸びが前月から大きく低下したが、今年の8月は平日（月～金）が昨年よりも1日少なく、通関日数が少なかったことも影響している可能性があることには留意する必要がある。



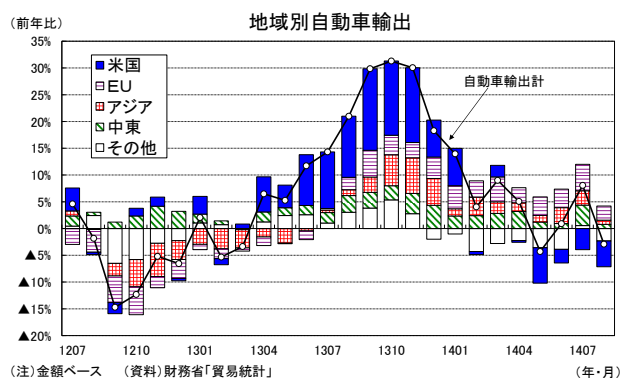
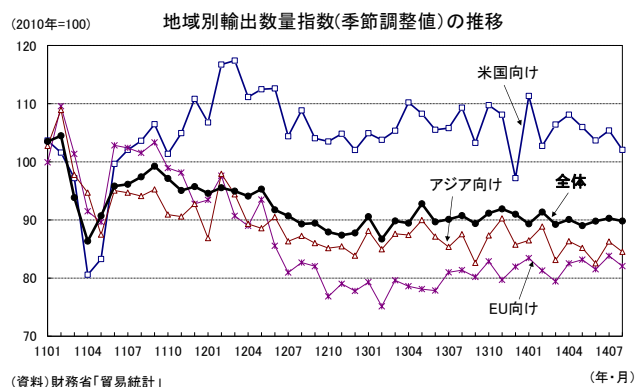
季節調整済の貿易収支は▲9,242億円の赤字となり、7月の▲10,218億円から赤字幅が縮小した。輸出は前月比▲0.0%（7月：同1.4%）の横這いとどまったが、輸入が前月比▲1.4%（7月：同0.5%）の減少となったことが貿易赤字の縮小に寄与した。貿易赤字は13年4-6月期の▲9.0兆円（季節調整済・年率換算値）から14年1-3月期に▲17.8兆円まで急拡大した後、14年度入り後には▲10兆円台前半まで赤字幅が縮小している。ただし、その主因は輸入の低迷によるものであり内容的には良いものとはいえない。

## 2. 米国向け自動車輸出の大幅減少が続く

8月の輸出数量指数を地域別に見ると、米国向けが前年比▲6.2%（7月：同▲1.0%）、EU向けが前年比1.0%（7月：同3.7%）、アジア向けが前年比▲3.3%（7月：同0.7%）となった。

季節調整値（当研究所による試算値）では、米国向けが前月比▲3.2%（7月：同1.7%）、EU向けが前月比▲2.1%（7月：同2.8%）、アジア向けが前月比▲2.0%（7月：同4.5%）、全体では前月比▲0.5%（7月：同0.6%）であった。8月はいずれの地域向けも減少したが、7、8月の平均を4-6月期と比べると、米国向けが▲2.1%、EU向けが+0.7%、アジア向けが+0.8%となっており、特に米国向けの弱さが目立つ。

米国向け輸出の内訳を見ると、自動車輸出の落ち込みが全体を大きく押し下げている。自動車輸出はEU向け（8月：前年比33.8%）、中国向け（8月：前年比17.7%）などは好調を維持しているが、米国向けが前年比▲13.5%と7月（同▲10.3%）に続き二桁の落ち込みとなったため、全体でも前年比▲2.9%と3ヵ月ぶりの減少となった。米国内の自動車販売は好調に推移しているが、日本企業は現地生産の拡大によって対応しているため、日本からの輸出につながっていない。



8月の輸入数量指数（季節調整値）は前月比▲1.7%（7月：同▲0.8%）となった。7、8月の平均は4-6月期よりも+0.3%高い水準となっているが、4-6月期に前期比▲5.1%と急速に落ち込んだことを考えれば輸入の基調は弱い。駆け込み需要の反動減の影響が和らいでいるにもかかわらず国内需要の回復が遅れていることを反映したものと考えられる。

3. (お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保證するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。